

(3) オペレーショナルリスク

リスク ファクター	リスク・機会の内容	リスク顕在化の影響	当社グループの取り組み
①事故の惹起 [重点リスク]	<p>&lt;リスク&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 労災、車両・製品事故、火災などの惹起</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事故、火災等の惹起による製品や被災者への損失補償、被災者への損害賠償支払い</li> <li>・ 顧客の信頼、社会的信用の低下による売上、利益の減少</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育・訓練並びに設備やシステム整備による防災・減災力の強化</li> <li>・ 預り資産(在庫)に対する適切な保険付保の確認、消火設備点検</li> <li>・ 職場の従業員とのコミュニケーション強化、高年齢層の増加や外国人など職場環境変化に応じた教育資料と体感教育の展開</li> <li>・ テクノロジー(安全品質集中センター、SSCV、警備ロボット等)の積極的な活用による安全職場の確立</li> <li>・ 設備の保全計画の策定と実施</li> <li>・ 事故発生時の初期対応、報告体制の整備と訓練の実施</li> <li>・ 社内での教訓、知見、優良事例の共有</li> <li>・ リモート・VR教育など国内外を問わず、安全活動を展開</li> <li>・ 海外を含めた安全品質キャラバンの実施、消防見える化システムを活用した消防法の順守、全員参加の消防訓練実施</li> <li>・ LDSK(LD作業規格)の制定と定期見直し</li> </ul>
②コンプライアンス違反(労働法規違反、贈収賄、人権の侵害等) [重点リスク]	<p>&lt;リスク&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 時間外労働規制などの違反</li> <li>・ 同一労働同一賃金に対する当局との解釈の相違</li> <li>・ 贈賄、競争法などの各種法令違反・社会規範の逸脱</li> <li>・ 情報漏洩</li> <li>・ 人権の侵害(各種ハラスメント、児童労働、低賃金労働)</li> <li>・ 知的財産の侵害</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会的信頼の低下による企業価値の毀損</li> <li>・ 顧客の信頼、社会的信用の低下による売上、利益の減少</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ロジスティードグループ行動規範を制定し、全員教育を実施</li> <li>・ 内部監査の定期的な実施</li> <li>・ 内部通報制度の導入</li> <li>・ 各地域の法務部門による調査、教育の実施</li> <li>・ 勤怠管理システムの管理体制の整備</li> <li>・ 賃金算定の明確化</li> <li>・ 知財専門部門の設置と全員教育</li> <li>・ 人権デューデリジェンスの実施</li> </ul>
③サービスの品質低下 [重点リスク]	<p>&lt;リスク&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 顧客信用の失墜</li> <li>・ サービスの品質悪化、納品遅延等の惹起</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 顧客の信頼、社会的信用の低下による売上、利益の減少。顧客の離反</li> <li>・ 惹起による弁済等の損失補償</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 品質管理部門によるKPI項目の管理、事業部門での改善実施</li> <li>・ プロセスマネジメントによる品質管理、改善提案</li> <li>・ 内部統制システムに基づくモニタリング、監査の実施とサポートの強化</li> <li>・ 顧客との定例会実施による品質モニタリングの実施</li> <li>・ 物流サービス品質だけでなく、顧客要求へのフォローの実施</li> <li>・ 品質事故事例の原因対策の共有</li> <li>・ 教育の展開による品質マインドの醸成と浸透による品質文化の定着</li> </ul>
④システム障害 [重点リスク]	<p>&lt;リスク&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自然災害による停電やシステム・設備トラブルによる大幅な作業遅延、業務停止</li> <li>・ 外部サービスのシステムダウンによる大幅な作業遅延、業務停止</li> <li>・ システム・設備レスポンスの悪化による業務遅延</li> <li>・ システムの老朽化に起因する障害の発生</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 作業遅延による顧客機会損失の補償や罰則の発生</li> <li>・ 社会的信頼の低下による企業価値の毀損</li> <li>・ 顧客の信頼、社会的信用の低下による売上、利益の減少</li> <li>・ 復旧や改修に係る費用の発生</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ システムの冗長化</li> <li>・ 障害発生時の代替手段整備</li> <li>・ システム復旧のバックアップ強化と現場訓練の実施</li> <li>・ 利用サービス毎の対応策とBCPの実施</li> <li>・ サイバーセキュリティ保険によるリスク管理の強化</li> <li>・ 定期的なシステムの改修、刷新</li> <li>・ 顧客システム刷新時などにおける不具合発生への対策(2025年の崖への対応)</li> </ul>